水産総合センター

ドジョウ種苗生産における自然採卵法によるふ化率向上

1　背景・目的

ドジョウ種苗生産においては、ホルモン注射をした雌雄から卵と精子を搾取して人工授精させる人工採卵法による採卵を行っているが、ふ化率が低いことが課題となっている。

そこで、ふ化率の向上を目的として、種苗生産水槽内に設置した網生簀内で自然に交尾・産卵させる自然採卵法について検討する。

2　技術のポイント

(1) 採卵の前々日に血清性性腺刺激ホルモンを雌 1 尾あたり100 単位※、さらに前日に胎盤性性腺刺激ホルモンを雌 1 尾あたり 400 単位、雄 1 尾あたり 200 単位腹腔内注射し、雌親：雄親＝1:1～2 の割合で網生け簀に収容することで、受精卵が得られる。

(2) 目合い 3mm の網生け簀を使用し、水槽底面から 10cm 以上離して設置することで、産まれた卵は網生け簀に付着することなく水槽底面に付着する。

(3) 平均ふ化率は、自然採卵法で 64%、人工採卵法では 15%で、自然採卵法を用いることにより高いふ化率で採卵することができる。

※単位：世界保健機関が制定したビタミン、ホルモンなどの効力を規定する単位

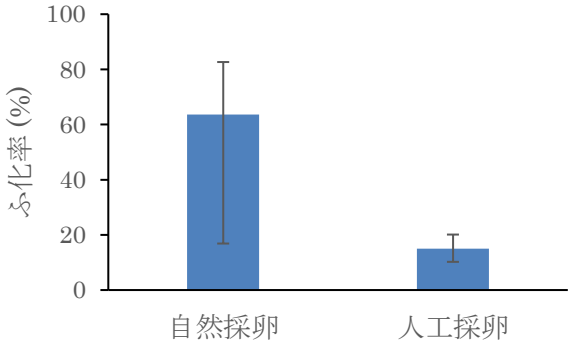

図　平均ふ化率

写真　自然採卵の様子

3　成果の活用と留意点

(1) 当センターでの採卵効率改善のみならず、従来の人工採卵法よりも簡便な方法であることから、民間養殖業者による採卵にも活用できる。

(2) 水温の低い 4 月～5 月上旬の採卵においては、ふ化率が下がる傾向があることから、事前の加温飼育により成熟させた親魚を使用することが必要である。

問合先：内水面水産センター　TEL 0761-78-3312
担当者：相木寛史